

長屋型災害公営住宅の空間特性と暮らしの様態に関する考察 ～相馬市の3事例を通して～

キーワード：東日本大震災，災害公営住宅，長屋型
コミュニティ形成，共同居住型

石井研究室 伊藤 瑠都
星 京子

1. 研究の背景と目的

東日本大震災（2011.3.11）を受けて、福島県相馬市では仮設住宅の早期解消を目指して、いち早く2012年5月に、特に高齢者や支援が必要な被災者向けの災害公営住宅を建設した。「長屋型災害公営住宅」（以下、長屋と略する）として将来的に介護等に対応できる設備を持ち、居住者間の共助コミュニティを促進しながら暮らすことが可能な共同居住型の集合住宅である。相馬市では4カ所、計5棟（58世帯分）の災害公営住宅を長屋型で整備した（図1）。

本研究では、この特徴的な災害公営住宅の居住者の空間特性を明らかにし、またそこでの暮らしの様態を明らかにすることで、今後の災害公営住宅のあり方、さらには高齢者の居住のあり方を考えるための基礎的な知見を得ることを目的としている。

2. 調査方法と調査対象

本研究では、相馬市内3カ所（狐穴・細田東・南戸崎）の長屋と居住者を対象として調査を行った。各住宅の居住者計20名に対して1人当たり15分～30分のヒアリングを行った。

調査は2016年9月2日14～16時（狐穴：11世帯11名のうちの8名）、9月5日9～12時（細田東：9世帯10名のうちの6名）、9月7日9～12時（南戸崎：5世帯7名のうちの5名）、11月10日10時半～17時（狐穴・細田東・南戸崎）を行った。各居住者に対するヒアリングを通して、震災前後での暮らしの様態や変化、震災時の避難と仮設住宅での暮らし、現在の長屋への居住の経緯や現在の暮らし、長屋での他者との関係や共同居住の実態などを抽出した。また、「狐穴」については住戸内の家具やものの設置を記録し、住戸内での居場所や滞在様態もヒアリングから確認した。

調査して得られたデータを図2のような「個人別データシート」として全員分を整理し、考察を行った。

3. 調査結果と考察

3.1 居住者の状況

「狐穴」では男性1名を含み平均年齢は81歳（6名が80歳以上）だった。「細田東」は6名全員が女性で、平均年齢が77歳で62歳が1名いた。要介護度1と2も各1名いた。「南戸崎」の5名は全員女性で平均年齢は82歳、92歳で要介護度2の方がいた。

入居経緯はさまざまだが、多くが一人暮らしで、共同居住型（長屋形式）の居住形態に興味を持って入居して

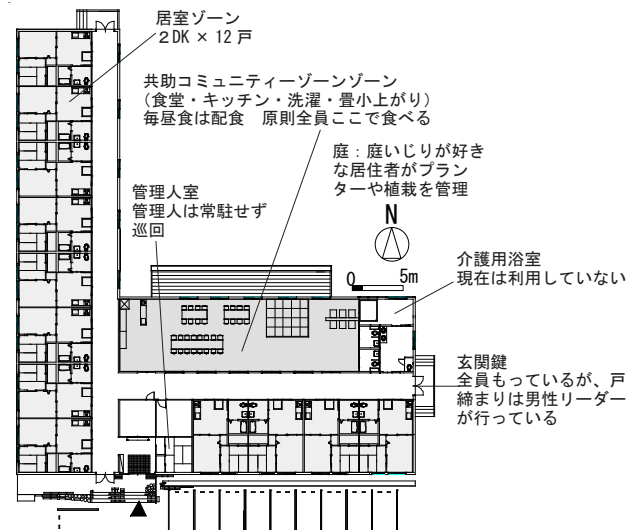


図1. 長屋（狐穴）平面図

いる。同じ仮設住宅に居住していたなど知人・友人がいることが入居の理由になっているケースもある。

3.2 共同生活とコミュニティ形成

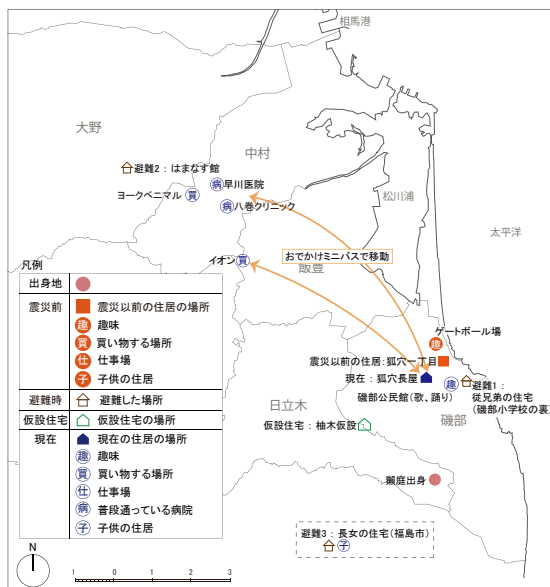
基本的には各自の住戸内で生活を送っている。洗濯機は共用空間にあり共同で利用する（図1）。相馬市は市の事業として毎日昼食（弁当）を配食し、共用空間でもに食事し、一日一回はお互いに顔を合わせ、交流をすることを促している。なお、各長屋には巡回型の管理人（4つの長屋を巡回する）がいる。あくまでも管理業務のためであり、個々の支援は業務の対象外である。

3つの長屋とも特徴のあるコミュニティが形成されていた。特に「狐穴」は震災前からの地縁コミュニティも存在していたため、お互いに「見守り支え合う」共助の関係も形成されていた。さまざまな個性の居住者が、個々に役割（掃除や片付けなど）を分担し共同生活を意識して生活をしていた。毎日の昼食後も決まって団らんの時間を持っているなど、密度の高い交流を行っている様子が確認できた（図2）。居住者属性の相違によるコミュニティ形成の形の相違も長屋間で見られた。

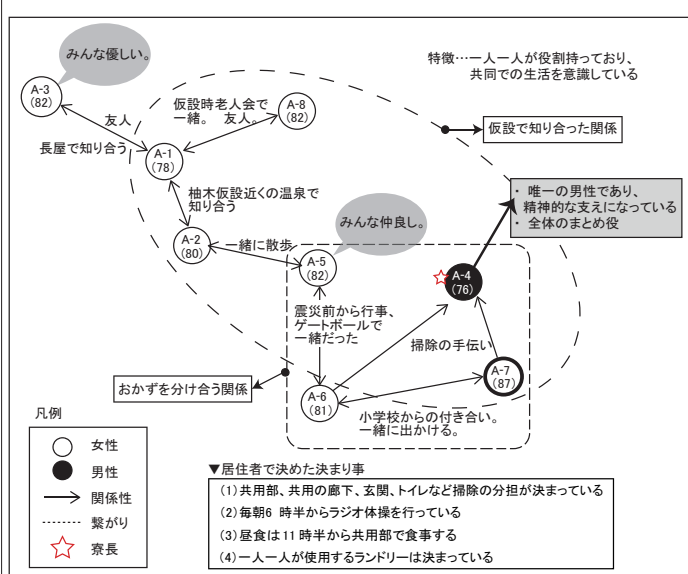
4. まとめ

長屋型災害公営住宅における生活やその特徴、住宅間での相違等が明らかになった。今後は居住者のさらなる高齢化や身体機能の変化が予想される。その際に長屋型居住の意味や価値があらためて検証される必要がある。

謝辞：調査にご協力くださいました相馬市建設部建築課、長屋にお住まいの皆様にはこの場を借りて心から謝意を示します。



(震災前後での住居と生活)



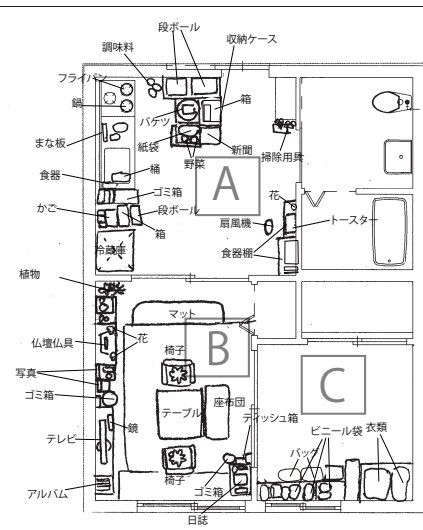
(長屋入居間の関係と特徴)

(1日の過ごし方)

4:00		13:00	自由時間 雑談 炊事 買い物 日記を書く
5:00	起床 5:30 掃除	14:00	
6:00	6:30 ラジオ体操 (共用部)	15:00	
7:00	7:00 朝食	16:00	
8:00	8:00~ 自由時間 公民館に行く (カラオケ・踊り・お寺参り)	17:00	
9:00		18:00	18:00夕食(各居室)
10:00		19:00	19:00~ テレビ (各居室)
11:00	11:30 昼食 (共用部)	20:00	
12:00		21:00	
		22:00	22:00 就寝

(家族構成の変遷)

	A-7	住まい	家族構成	その他
震災前	1957年~	獨居生まれ 磯部、持ち家(お菓子屋さん)	夫 A-7さん 娘1 別の場所で生活	一人暮らし 夫は平成16年に他界 娘は別の場所で暮らしていた
避難時	2011年3月11日 2011年3月12日 2011年3月14日	磯部小学校へ避難 ーいとこの家へ はまなす館へ避難 娘がいる福島へ(3ヵ月)	夫 A-7さん 娘1 別の場所で生活	いとこの家は磯部小学校の裏
仮設住宅	2011年6月	柚木仮設住宅へ	夫 A-7さん 娘1 別の場所で生活	
長屋入居	2013年5月	長屋Aに入居	夫 A-7さん 娘1 別の場所で生活	



(住戸内の展開図)

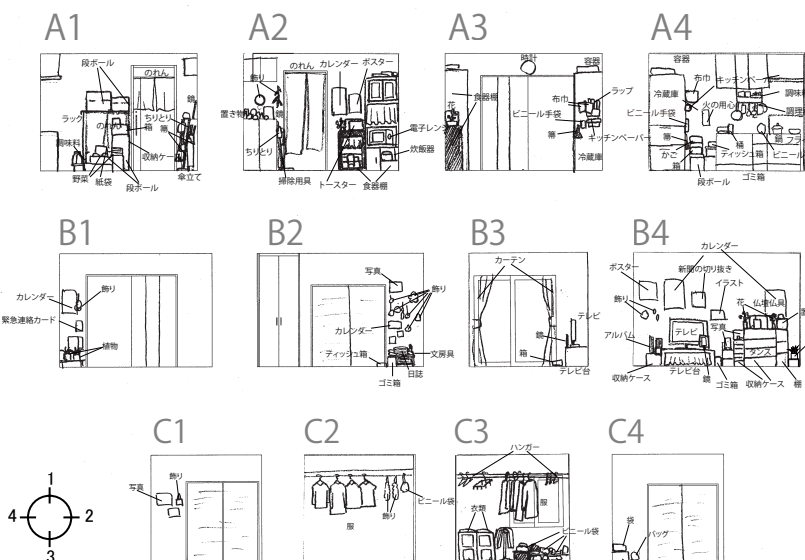


図2. 個人別のデータシート(狐穴、A-7さん事例)